



6 2 0 0 1 0 4 3 0 0 0 1 1 7 5 0 2 5

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-175025

(P2001-175025A)

(43) 公開日 平成13年6月29日 (2001.6.29)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テマコード\* (参考)

G 0 3 G 9/08

G 0 3 G 9/08

2 H 0 0 5

9/087

3 7 2

3 8 1

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平11-362390

(22) 出願日

平成11年12月21日 (1999. 12. 21)

(71) 出願人 000005968

三菱化学株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

(72) 発明者 小泉 勝男

神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1000番地

三菱化学株式会社横浜総合研究所内

(72) 発明者 高橋 徳明

神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1000番地

三菱化学株式会社横浜総合研究所内

(74) 代理人 100103997

弁理士 長谷川 暁司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 静電荷像現像用トナー

(57) 【要約】

【課題】 低温定着性に優れると共に、耐ブロッキング性にも優れ保存安定性を有する静電荷像現像用トナーを提供する。

【解決手段】 ガラス転移点が25～55℃の結着樹脂と着色剤を少なくとも含有し、体積平均粒径が4～20 μmであるトナー粒子の表面に、ガラス転移点が60～110℃の樹脂からなり、体積平均粒径が0.02～1 μmである樹脂微粒子が付着してなる静電荷像現像用トナー。

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ガラス転移点が 25～55℃の結着樹脂と着色剤を少なくとも含有し、体積平均粒径が 4～20 μm であるトナー粒子の表面に、ガラス転移点が 60～110℃の樹脂からなり、体積平均粒径が 0.02～1 μm である樹脂微粒子が付着してなることを特徴とする静電荷像現像用トナー。

【請求項 2】 トナー粒子の体積平均粒径 (D) に対する、該トナー粒子の表面に付着している樹脂微粒子の体積平均粒径 (d) の比 (d/D) が、0.005～0.1 の範囲にある請求項 1 に記載の静電荷像現像用トナー。

【請求項 3】 トナー粒子の表面に付着している樹脂微粒子の割合が、トナー粒子 100 重量部に対して 1～20 重量部である請求項 1 又は 2 に記載の静電荷像現像用トナー。

【請求項 4】 トナー粒子の表面に付着している樹脂微粒子が、ジアリルフタレート系樹脂からなる請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の静電荷像現像用トナー。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子写真方式の画像形成方法における静電荷潜像を現像するための静電荷像現像用トナーに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、電子写真方式の画像形成方法として、光導電性物質からなる感光体を一様に帯電させ、次いで、露光せしめた後、露光された部分の電荷を消散させて静電荷潜像を形成し、露光されていない部分に荷電させたトナーを付着させることによってその静電荷潜像を可視化させて現像し、得られた可視像を転写紙等の転写材に転写せしめ、加熱、加圧等によってその可視像を転写材に定着させる方法が多用されている。

【0003】そして、その電子写真方式を採る複写機やプリンターにおいては、高速化等に対応して定着温度の低温化が求められ、例えば、トナー粒子の結着樹脂としてガラス転移点或いは融点の低いものが用いられる傾向にある。しかしながら、低ガラス転移点或いは低融点の結着樹脂からなるトナー粒子は、保存時にトナー粒子同士がブロッキングを起こし、場合によっては粒子形状を保てずにブロック化してしまうという問題が往々にして発生する。

【0004】これに対して、低温定着性と保存安定性を両立させるべく、例えば、トナー粒子中に特定の合成エステルワックスを含有させる方法（例えば、特許第 2949558 号公報）、懸濁重合により、ガラス転移点の低い結着樹脂からなるトナー粒子表面にガラス転移点の高い樹脂層を形成させたコアシェル構造のトナー粒子を用いる方法（例えば、特再表 WO 97/01131 号公報）、トナー粒子表面を、縮重合系樹脂と付加重合系

2

樹脂からなるハイブリッド樹脂に離型剤を含有させた樹脂層で被覆したコアシェル構造のトナー粒子を用いる方法（例えば、特開平 10-301325 号公報）等が提案されているが、いずれのトナー粒子も、低温定着性と保存安定性の両立に関し市場の要求を十分に満足できる程には到っていないのが現状である。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、前述の従来技術に鑑みてなされたもので、従って、本発明は、低温定着性に優れると共に、耐ブロッキング性にも優れ保存安定性を有する静電荷像現像用トナーを提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、前記課題を解決すべく鋭意検討した結果、低ガラス転移点の結着樹脂を含有するトナー粒子の表面に高ガラス転移点の樹脂の微粒子を付着させたトナーが前記目的を達成できることを見出し本発明を完成したもので、即ち、本発明は、ガラス転移点が 25～55℃の結着樹脂と着色剤を少なくとも含有し、体積平均粒径が 4～20 μm であるトナー粒子の表面に、ガラス転移点が 60～110℃の樹脂からなり、体積平均粒径が 0.02～1 μm である樹脂微粒子が付着してなる静電荷像現像用トナー、を要旨とする。

## 【0007】

【発明の実施の形態】本発明において、トナー粒子を構成する結着樹脂としては、特に限定されるものではなく、スチレン系樹脂、ポリエステル系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリカーボネート系樹脂、ポリ塩化ビニル系樹脂、ポリオレフィン系樹脂、ポリフェニレンエーテル系樹脂、ポリビニルブチラール系樹脂、ジアリルフタレート系樹脂、ケトン系樹脂、アクリル系樹脂、フッ素系樹脂、ウレタン系樹脂、エポキシ系樹脂等、結着樹脂として一般に用いられている各種樹脂を用いることができる。中で、本発明においては、スチレン-アクリレート系共重合体に代表されるスチレン系樹脂が好ましい。

【0008】そのスチレン系樹脂について、具体的に例示すると、スチレン、α-メチルスチレン、α-エチルスチレン等の α-置換アルキルスチレン、m-メチルスチレン、p-メチルスチレン、2,5-ジメチルスチレン等の核置換スチレン、p-クロロスチレン、p-ブロモスチレン、ジブロモスチレン等の核置換ハロゲン化スチレン等のスチレン類の単独重合体、又は、それらのスチレン類と、メチル（メタ）アクリレート、エチル（メタ）アクリレート、プロピル（メタ）アクリレート、ブチル（メタ）アクリレート、ペンチル（メタ）アクリレート、ヘキシル（メタ）アクリレート、2-エチルヘキシル（メタ）アクリレート、グリシジル（メタ）アクリレート、ベンジル（メタ）アクリレート等の単官能アクリレート、エチレングリコールジ（メタ）アクリレー

3

ト、ジエチレングリコールジ(メタ)アクリレート、プロピレングリコールジ(メタ)アクリレート、テトラメチレングリコールジ(メタ)アクリレート、ネオペンチルグリコールジ(メタ)アクリレート、ヘキサメチレングリコールジ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパンジ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパントリ(メタ)アクリレート、グリセロールジ(メタ)アクリレート、グリセロールトリ(メタ)アクリレート、ペンタエリスリトールジ(メタ)アクリレート、ペンタエリスリトールトリ(メタ)アクリレート、ペンタエリスリトールテトラ(メタ)アクリレート、ジペンタエリスリトールジ(メタ)アクリレート、ジペンタエリスリトールトリ(メタ)アクリレート、ジペンタエリスリトールペンタ(メタ)アクリレート、ジペンタエリスリトールヘキサ(メタ)アクリレート、ソルビトールトリ(メタ)アクリレート、ソルビトールテトラ(メタ)アクリレート、ソルビトールペンタ(メタ)アクリレート等の多官能アクリレート等のアクリレート類、又は、更に(メタ)アクリル酸(尚、以上の例示における「(メタ)アクリル」とは、アクリル及びメタクリルを意味するものとする。)との二元或いは三元以上の共重合体等が挙げられる。

【0009】本発明における前記結着樹脂は、ガラス転移点が25～55℃であることを必須とし、35～50℃であるのが好ましい。ガラス転移点が前記範囲未満では、トナー粒子として耐ブロッキング性が劣ることとなり、一方、前記範囲超過では、低温での定着性が劣ることとなる。

【0010】尚、本発明において、ガラス転移点は、示差熱分析装置(島津製作所製「DT-30型」)を用い、樹脂約20mgを10℃/分の速度で150℃まで昇温し室温まで冷却した後、再度、10℃/分の速度で昇温したときのDTA曲線の変曲温度部の前後の滑らかな曲線の両接線の交点をもってガラス転移点とした。

【0011】又、本発明において、トナー粒子を構成する着色剤としても、特に限定されるものではなく、トナー用着色剤として一般に用いられている各種の有機及び無機顔料、染料等を用いることができ、具体的には、例えば、カーボンブラック、ニグロシン染料、アニリンブルー、クロムイエロー、フタロシアニンブルー、オイルレッド、フタロシアニングリーン、ハンザイエロー、ローダミン系顔料、キナクリドン、ベンジジンイエロー、ローズベンガル、トリアリールメタン系染料、モノアゾ系顔料、ジスアゾ系顔料、縮合アゾ系顔料等が挙げられ、フルカラートナーの場合には、イエロートナー用としてはベンジジンイエロー、モノアゾ系顔料、マゼンタトナー用としてはキナクリドン、モノアゾ系顔料、シアントナー用としてはフタロシアニンブルー

4

ーが、それぞれ好適なものとして挙げられる。

【0012】尚、トナー粒子における前記着色剤の含有量は、前記結着樹脂100重量部に対して1～20重量部であるのが好ましい。

【0013】又、本発明におけるトナー粒子は、前記結着樹脂と前記着色剤を少なくとも含有するが、必要に応じて、更に帯電制御剤を含有していてもよく、その帯電制御剤としては、例えば、ニグロシン系染料、4級アンモニウム塩系化合物、トリフェニルメタン系化合物、イミダゾール系化合物、ポリアミン系樹脂等の正荷電性帯電制御剤、又は、クロム、コバルト、アルミニウム、鉄等の金属含有アゾ系染料、サリチル酸若しくはアルキルサリチル酸のクロム、亜鉛、アルミニウム等の金属塩や金属錯体、ベンジル酸の金属塩や金属錯体、アミド化合物、フェノール化合物、ナフトール化合物、フェノールアミド化合物等の負荷電性帯電制御剤等、公知のものを用いることができる。

【0014】尚、トナー粒子における前記帯電制御剤の含有量は、前記結着樹脂100重量部に対して0.01～10重量部であるのが好ましい。

【0015】又、本発明におけるトナー粒子は、必要に応じて、更に離型剤としてのワックス類を含有していてもよく、そのワックス類としては、例えば、低分子量ポリエチレン、低分子量ポリプロピレン、エチレン-プロピレン共重合体等のポリオレフィン系ワックス、パラフィン系ワックス、ステアリン酸エステル、ベヘン酸エステル、モンタン酸エステル等の長鎖脂肪族基を有するエステル系ワックス、水添ヒマシ油、カルナバワックス等の植物系ワックス、ジステアリルケトン等の長鎖アルキル基を有するケトン、アルキル基を有するシリコン、ステアリン酸等の高級脂肪酸、長鎖脂肪族アルコール、ペンタエリスリトール等と長鎖脂肪酸との(部分)エステル体、オレイン酸アミド、ステアリン酸アミド等の高級脂肪酸アミド等、公知のものを用いることができる。

【0016】尚、トナー粒子における前記ワックス類の含有量は、前記結着樹脂100重量部に対して1～25重量部であるのが好ましい。

【0017】更に、本発明におけるトナー粒子は、トナーの粘着性、凝集性、流動性、帯電性、表面抵抗等の改質を目的として公知の各種内添剤等を更に含有していてもよい。

【0018】本発明におけるトナー粒子は、前記結着樹脂と前記着色剤を少なくとも含有し、体積平均粒径が4～20μmであることが必須であり、体積平均粒径が5～10μmであるのが好ましい。体積平均粒径が前記範囲未満では、トナーとしての流動性が低下することとなり、一方、前記範囲超過では、トナーとしての解像性等が劣ることとなる。尚、トナー粒子の前記体積平均粒径は、ベックマン・コールター社製マルチサイザーにて測定したものである。

5

【0019】本発明における前記トナー粒子の製造方法としては、特に限定されるものではなく、例えば、前記結着樹脂、前記着色剤、及び前記帯電制御剤、前記ワックス等を熔融混練し、粉碎、分級する粉碎法、前記結着樹脂成分モノマーを、前記着色剤、及び前記帯電制御剤、前記ワックス等の存在下に懸濁重合させる懸濁重合法、前記結着樹脂成分モノマーを乳化重合させたエマルジョンを、前記着色剤、及び前記帯電制御剤、前記ワックス等の存在下に攪拌して乳化粒子を凝集成長させる方法、或いは、前記結着樹脂成分モノマーを、前記ワックスのエマルジョンの存在下に乳化重合させたワックス内包化エマルジョンを、前記着色剤、及び前記帯電制御剤等の存在下に攪拌して乳化粒子を凝集成長させる方法等の乳化重合凝集法等の方法を採ることができる。

【0020】本発明の静電荷像現像用トナーは、前記トナー粒子の表面に、ガラス転移点が60～110℃の樹脂からなり、体積平均粒径が0.02～1μmである樹脂微粒子が付着してなることを必須とする。

【0021】トナー粒子表面にこの樹脂微粒子が存在しない場合には、本発明の目的を達成することが困難となり、更に、存在しても、この樹脂微粒子のガラス転移点が前記範囲未満では、トナーとして耐ブロッキング性が劣ることとなり、一方、前記範囲超過では、低温での定着性が劣ることとなる。又、体積平均粒径が前記範囲未満では、トナーとしての流動性が低下することとなり、一方、前記範囲超過では、トナー粒子表面への付着が十分になされず、本発明の目的を達成することが困難となる。

【0022】尚、ここで、トナー粒子表面への樹脂微粒子の付着とは、通常は融着を意味するが、静電気等による吸引等の単なる付着をも含むものとする。

【0023】又、本発明において、トナー粒子の体積平均粒径(D)に対する、該トナー粒子の表面に付着している樹脂微粒子の体積平均粒径(d)の比(d/D)が、0.005～0.1の範囲にあるのが好ましく、0.01～0.05の範囲にあるのが更に好ましい。

【0024】又、トナー粒子の表面に付着している樹脂微粒子の割合が、トナー粒子100重量部に対して1～20重量部であるのが好ましく、3～15重量部であるのが更に好ましい。付着している樹脂微粒子の割合が前記範囲未満では、トナーとしてブロッキング性が劣る傾向となり、一方、前記範囲超過では、トナー本来の有する現像性、解像性等の発現が困難な傾向となる。

【0025】本発明において、前記樹脂微粒子の樹脂としては、トナー粒子における結着樹脂として挙げたと同様の樹脂が用いることができるが、中で、ジアリルフタレート系樹脂が好ましく、具体的には、例えば、ジアリルフタレート単独重合体、ジアリルイソフタレート単独重合体、ジアリルフタレート-ジアリルイソフタレート共重合体、ジアリルフタレート-（メタ）アクリレート

6

共重合体、ジアリルイソフタレート-（メタ）アクリレート共重合体、ジアリルフタレート-ジアリルイソフタレート-（メタ）アクリレート共重合体等が挙げられる。尚、ここで、（メタ）アクリレートとしては、トナー粒子における結着樹脂として挙げたと同様のものが用いられる。これらの樹脂は、例えば、ダイソー社より「DAP」の商品名でエマルジョンとして市販されているものをを用いることができる。

【0026】本発明の静電荷像現像用トナーの製造は、特に限定されるものではないが、例えば、前記トナー粒子と前記樹脂微粒子とを、例えば両者のエマルジョンを混合して、室温～80℃程度の温度で、50～600rpm程度の回転数で攪拌する湿式法か、或いは、例えばヘンシェルミキサー等の混合機により混合する等の乾式法等によりなされる。

【0027】

【実施例】以下、本発明を実施例により更に具体的に説明するが、本発明はその要旨を越えない限り、以下の実施例に限定されるものではない。

【0028】実施例1

スチレン-ブチルアクリレート共重合体樹脂（ガラス転移点30℃、積水化学社製「MK-9472」）100重量部、シアン顔料（固形分濃度35重量%の水分散物、大日精化社製「EP700」）17重量部、帯電制御剤（オリエント化学社製「P-51」）2重量部、及びパラフィンワックス（固形分濃度25重量%のエマルジョン、日本精蠟社製「LUVAX-1266」）20重量部を、二軸押出機（池貝鉄工所社製「PCM30」）を用いて熔融混練し、粉碎、分級することにより、体積平均粒径8.4μmのトナー粒子を製造した。

【0029】次いで、得られたトナー粒子100重量部、ジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂（ガラス転移点90℃）のエマルジョン（体積平均粒径0.1μm、樹脂濃度40重量%、ダイソー社製「DAP-SPHD-E」）17.9重量部、及び脱塩水600重量部を、室温にて300rpmで攪拌して均一に分散させ、pHを3.0に調整し、35℃に昇温して2時間攪拌を継続した後、濾過、水洗、乾燥することにより、トナー粒子の表面に樹脂微粒子が融着した静電荷像現像用トナーを調製した。

【0030】得られた静電荷像現像用トナーについて、以下に示す方法で、定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

【0031】定着性

二成分系複写機（三田工業社製「DC-2355」）を用いて未定着画像を形成させ、次いで、定着機の温度を任意にコントロールできるように改造した複写機（シャープ社製「JX-8200」）の定着機（定着ローラー径35mm）を用いて、プロセススピード120mm/秒、ニップ4mmで、シリコンオイルを塗布しながら

7

105～200℃の温度範囲で定着可能温度域を測定し、以下の基準で評価した。

◎；下限温度が115℃以下。

○；下限温度が115℃超過125℃以下。

#### 【0032】耐ブロッキング性

平らな磁性板の上に、長さ50mmのハーフパイプ2枚を向かい合わせて輪ゴムで止めて形成した内径30mmの円筒内に、55mm程度の高さに切り揃えた葉包紙を筒状に丸めてセットし、この中にトナー10gを入れ、次いで、その上に、低部の直径27mm、重さ20gの分銅をのせた後、50℃、50%RHの雰囲気下に5時間放置し、室温まで冷却させてから、分銅、ハーフパイプ、及び葉包紙を取り外すことにより、円柱状の耐ブロッキング性評価用サンプルを作製し、この円柱状サンプルの上に錘をのせ、サンプルが破壊したときの錘の重量により、以下の基準で耐ブロッキング性を評価した。

#### 【0033】

◎；200g以下。

○；200g超過500g以下。

△；500g超過1kg以下。

×；1kg超過3kg以下。

××；3kg超過。

#### 【0034】比較例1

実施例1で製造したトナー粒子のみを用いて、前記と同様の方法で定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0035】実施例2

実施例1において、トナー粒子の結着樹脂としてスチレン-ブチルアクリレート共重合体樹脂（ガラス転移点50℃、積水化学社製「MK-9407」）を用いたこと、トナー粒子の体積平均粒径を9.1μmとしたこと、トナー調製時の樹脂微粒子としてのジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂エマルジョンを16.5重量部用いたこと、及び攪拌時の温度を50℃としたこと、の外は、実施例1と同様にしてトナー粒子を製造し、該粒子の表面に樹脂微粒子が融着した静電荷像現像用トナーを調製し、得られたトナーについて定着性及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0036】比較例2

実施例2で製造したトナー粒子のみを用いて、前記と同様の方法で定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0037】実施例3

スチレン（59重量%）/ブチルアクリレート（39重量%）/アクリル酸（2重量%）の混合モノマーを、乳化剤としてドデシルベンゼンスルホン酸ソーダを用い、重合開始剤として過酸化水素を用いて乳化重合することにより得られた三元共重合体樹脂（ガラス転移点40℃）のエマルジョン（樹脂濃度20重量%）500重量

8

部、実施例1にて用いたと同じシアン顔料17重量部、帯電制御剤（固形分濃度5重量%の水分散物、三菱化学社製「MCN13NK」）12重量部、及び実施例1にて用いたと同じパラフィンワックス20重量部を、混合攪拌しながらpH3.5に調整した後、1℃/分で昇温し、体積平均粒径が5.5μmとなった時点でpHを7.0に調整して粒子の凝集成長を止め、更に60℃で1時間保持した後、冷却し、濾過、水洗、乾燥することにより、トナー粒子を製造した。

【0038】次いで、得られたトナー粒子を用いて、実施例1において、トナー調製時の樹脂微粒子としてのジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂エマルジョンを27.5重量部用いたこと、及び攪拌時の温度を40℃としたこと、の外は、実施例1と同様にして静電荷像現像用トナーを調製し、得られたトナーについて定着性及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0039】比較例3

実施例3で製造したトナー粒子のみを用いて、前記と同様の方法で定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0040】実施例4

スチレン（60重量%）/ブチルアクリレート（39.6重量%）/ジビニルベンゼン（0.4重量%）の混合モノマー100重量部を、ブラック顔料（三菱化学社製「カーボンブラックMA100S」）4重量部、及び実施例1にて用いたと同じパラフィンワックス20重量部の存在下に、水分散液とし、重合開始剤として2,2'-アゾビス（2,4-ジメチルバレロニトリル）を用いて懸濁重合し、酸洗浄、濾過、水洗、乾燥することにより、ガラス転移点40℃の三元共重合体樹脂からなり、体積平均粒径6.9μmのトナー粒子を製造した。

【0041】次いで、得られたトナー粒子を用いて、実施例1において、トナー調製時の樹脂微粒子としてのジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂エマルジョンを21.75重量部用いたこと、及び攪拌時の温度を40℃としたこと、の外は、実施例1と同様にして静電荷像現像用トナーを調製し、得られたトナーについて定着性及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0042】比較例4

実施例4で製造したトナー粒子のみを用いて、前記と同様の方法で定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

#### 【0043】実施例5

実施例4において、スチレン（67重量%）/ブチルアクリレート（32.6重量%）/ジビニルベンゼン（0.4重量%）の混合モノマーを用いたこと、の外は実施例4と同様にして、ガラス転移点50℃の三元共重合体樹脂からなり、体積平均粒径8.2μmのトナー粒

子を製造した。

【0044】次いで、得られたトナー粒子を用いて、実施例1において、トナー調製時の樹脂微粒子としてのジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂エマルジョンを18.25重量部用いたこと、及び攪拌時の温度を50℃としたこと、の外は、実施例1と同様にして静電荷像現像用トナーを調製し、得られたトナーについて定着性及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

【0045】比較例5

実施例5で製造したトナー粒子のみを用いて、前記と同様の方法で定着性、及び耐ブロッキング性を評価し、結

果を表1に示した。

【0046】比較例6

実施例2において、トナー調製時の樹脂微粒子として、ジアリルフタレート-アクリル酸エステル共重合体樹脂（ガラス転移点40℃）のエマルジョン（体積平均粒径0.1μm、樹脂濃度40重量%、ダイソー社製「DAP-SP-E」）を用いたことの外は、実施例2と同様にして静電荷像現像用トナーを調製し、得られたトナーについて定着性及び耐ブロッキング性を評価し、結果を表1に示した。

【0047】

【表1】

表1

	定着可能温度域		耐ブロッキング性	
実施例1	110～200℃以上	◎	650g	△
比較例1	105～200℃以上	◎	5000g以上	××
実施例2	120～200℃以上	○	90g	◎
比較例2	115～200℃以上	◎	3000	×
実施例3	118～200℃以上	○	260	○
比較例3	110～200℃以上	◎	5000g以上	××
実施例4	115～200℃以上	◎	300g	○
比較例4	108～200℃以上	◎	5000g以上	××
実施例5	123～200℃以上	○	100g	◎
比較例5	115～200℃以上	◎	3500g	××
比較例6	113～200℃以上	◎	4500g	××

【0048】

【発明の効果】本発明によれば、低温定着性に優れると

共に、耐ブロッキング性にも優れ保存安定性を有する静電荷像現像用トナーを提供することができる。

フロントページの続き

(72)発明者 安藤 修

神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1000番地  
三菱化学株式会社横浜総合研究所内

Fターム(参考) 2H005 AA01 AA08 AA21 CA02 CA04  
EA03 EA05 EA07